

科 目 名	薬用植物学 Pharmaceutical Botany
授 業 形 態	講義
必修・選択	必修
単 位 数	2単位
開講時期・年度	1回生 前期
教 員 名	酒井 英二
グリーンファーマシー科目	対象
実務家教員担当科目	
オフィスアワー	随時e-mailにて質問を受け付ける。 esakai@gifu-pu.ac.jp
本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー	薬物療法の出発点でもある薬用植物学を講述する。薬用植物を他の植物と区別し理解するために植物形態学と植物分類学の基礎を解説し、日本薬局方収載の薬用植物を例に、医療に利用される植物の分類、形態、生産、薬効などについて述べる。さらに民間薬・漢方薬などの代替医療についても解説する。
ディプロマポリシーにおける本科目が養う資質能力	薬剤師や創薬探索者は、天然に存在する化学物質を理解する必要がある。本科目では薬用植物を由来とする医薬品原料(生薬)を理解するために、基礎知識(生薬の種類、基原、成分、薬効・用途)を修得する【 DP1】。
アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価方法	基礎知識の修得と体系的理解度を、受講態度、確認問題、課題提出および定期試験によって評価・判定する。 講義の受講を前提に、定期試験の受験を認める。ただし、高学年に進級し講義を受講できない学生には、申し出により別途課題を与える。また、講義ノート掲載の資料で自習し、期日までに確認テストを提出する。課題及び確認テストの提出をもって受験資格とする。
教 科 書	『薬用植物学 改訂第7版』 南江堂 978-4-524-40307-3
参 考 書	『新訂生薬学 改訂第9版増補』 南江堂 978-4-524-40436-0
講義/実習/演習方法	教科書と学生掲示板講義ノート資料により行う。 全員に植物分類の課題を課す。
関 連 科 目	薬学基礎実習、生薬学、代替医療論

授 業 計 画

【 】：学修事項の通し番号
：グリーンファーマシー学修事項
：アドバンストカリキュラム教育目標

回	項目	内容
1	薬用植物の歴史	薬用植物学概論、薬用植物利用の歴史【C-123】
2	植物の分類と区別	植物分類体系と学名
3	医療に使用される薬用植物	日本薬局方収載生薬【C-044,C-045】
4	生活の中の薬用植物	漢方薬、西洋薬、民間薬【D-062】
5	本草学と東洋医学理論	陰陽五行、薬食同源、薬膳、植物療法
6	医薬品シーズの探索品	伝統医学，民族薬学，生物農薬，化粧品
7	葉・茎を利用する薬用植物	ゲンノショウコ，オオバコ等【C-124,C-125】
8	樹皮を利用する薬用植物	キハダ，ケイ等【C-124,C-125】
9	根を利用する薬用植物	ミシマサイコ，ニンジン等【C-124,C-125】
10	根茎を利用する薬用植物	オウレン，ショウガ等【C-124,C-125】
11	花・果実を利用する薬用植物	サフラン，サンショウ等【C-124,C-125】
12	薬用植物資源の確保と生産	消費と自然保護の両立、CBD、ABS 薬用植物栽培技術とGAP、生薬調製加工技術
13	規制される薬用植物	麻薬、あへん、大麻、覚醒剤 ワシントン条約
14	薬用植物による健康被害	代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる【C-124,C-125】 生薬の副作用や植物中毒

回	項目	内容
15	いわゆる健康食品	特別用途食品・保健機能食品・機能性表示食品【D-066,E-022】 無承認無許可医薬品、健康増進法、保健機能食品制度
16	定期試験	
	備考 (授業計画)	

成績評価

試験の受験資格	講義の全受講を前提とするが、病気等の届け出により、自習課題等で振替ることがある。 ただし、高学年に進級し講義を受講できない学生（履修済み）には、申し出により別途課題を与える。また、講義ノート掲載の資料で自習し、期日までに確認テストを提出する。課題及び確認テストの提出をもって受験資格とする。
評価項目別配点	確認テストと課題提出 30% 定期試験 70%
評価基準	優 84%以上 良 74%以上 84%未満 可 60%以上 74%未満 不可 60%未満
追再試験	確認テスト、課題提出および定期試験を総合的に判断し、60%未満の学生に対して再試験を実施する。 ただし、定期試験の得点率が40%未満の場合は、不合格（履修済み）とし、再試験を受験できない。 再試験は、試験の点数のみで評価し、得点率60%以上を合格（84%以上を良、60以上84未満を可）とする。 追試験の場合、定期試験に準じて評価する。 追再試験を無断で欠席した場合は、不合格（未履修）とし、次年度は新規履修扱いで講義の全受講が必要となる。
備考 (成績評価)	持ち越し学生（履修済み）については、再履修であることから評価は再試験と同様に扱う。 なお、欠席（追再試験を含む）、休学などで前年度履修していない場合（未履修）は、新規履修のため講義の全受講を前提とし、確認テスト、課題提出および定期試験を総合的に判断して評価する。

実務経験

実務家教員	
-------	--